

令和6年度における教育委員会事務局の主要課題について

教育委員会事務局では、令和6年度における主要課題を以下のとおりとし、これらの課題解決に向けて着実な取組を進めていくこととする。

1 全体的課題

令和6年度は、社会経済環境の変化等に対応した新たな視点と様々なニーズを踏まえ改定する、杉並区教育ビジョン2022推進計画に基づき、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を着実に推進していく。

教育を通じた「人への投資」は、成長への源であり、その成長により、社会への還元や学び合いが分配され、みんなのしあわせを創ることに結び付く。まずは深刻化する教員不足を解消していくために、教員の働きやすい環境づくりや、専門的な研修の充実等を図っていく。

そのほか、ICTの活用による子どもの学びの充実や教員のICT活用指導力の向上を図り、学びの充実を推進する。

教育は社会全体で取り組むべき課題であり、教育委員会もその責任を果たしていくために、令和6年度の教育行政の課題に向き合い、共に良い教育環境を築くために、全力で取り組んでいく。

2 個別的課題

各課における「令和6年度の主要課題」のとおり

令和6年度の主要課題（庶務課・学校 ICT 担当）

1	いじめ対策の拡充
	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ重大事態件数の急増に伴い、いじめ問題対策委員会による調査体制の見直し・強化の検討を行う。 ○ （仮称）いじめ基本条例の制定について、検討を行う。
2	区立学校への庶務事務システム導入の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 区立学校に所属する区費職員向け庶務事務システム(10年度導入予定)について、検討を継続する。また、出退勤時間の把握を先行して開始するため、令和6年度中にタイムカードのみ暫定導入を行う。
3	区立学校校務基盤システムの運用形態の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度の現行システム更新時の再構築(校務システムと教務システムの統合)に向け、新たな校務支援システムの運用形態について、事業者(令和5年システム構築プロポーザル実施済)と協議し、検討を進める。
4	義務教育保護者負担軽減の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者負担の学用品費等の経費について、昨年度のあり方検討報告に基づき、引き続き検討を行う。給食費については、令和5年10月から公費負担が実施されているが、主管課の学務課で行う公会計化システム導入の検討についても庶務課が加わる。
5	教育委員会事務局組織の改編
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織風土を刷新するとともに、よりよい職場環境の整備のため、抜本的な組織改編を行い、教育委員会事務局の体制見直しを図る。

令和6年度の主要課題（教育人事企画課）

1	<p>教員の働き方改革の推進と人材確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教育ビジョン2022推進計画」に則り、学校の業務改善や教職員の意識改革、教育DXの推進、区費教員や副校長校務支援員、スクール・サポート・スタッフ等の配置による教員の負担軽減を一層図る。 ○新たに都費教職員等向けの勤怠管理システムの導入により、出退勤の記録や休暇・出張・超過勤務などをオンラインで処理できるようにし、デジタル化による学校業務の効率化に向けた取組を進める。（令和7年度中運用開始予定） ○臨時的任用教員や時間講師、その他の会計年度任用職員等を対象にした説明会を開催し、杉並区の学校で働くことの魅力を伝えながら、人材確保に努める。
2	<p>区費教員の有効な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校35人学級への段階的な移行（国）終了を踏まえ、本区で進めてきた30人程度学級を目的としてきた区費教員の配置を、小学校高学年の教科担任制の推進など、各学校の課題の解決に資する活用へと移行していく。 ○令和5年度に初めて誕生した区費教員管理職の今後の任用制度の充実に向け、関係機関との調整を図りながら検討を進める。
3	<p>サービス事故防止の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サービス事故防止の徹底に向けて、校長会等におけるサービス事故防止に関する啓発に加えて、都からの教職員の処分公表資料等を学校管理職に機を逸せずに周知して危機意識を高める。 ○各校における教職員同士の声掛けやサービス事故防止研修を充実させ、教育に関わる公務員として自らを律し、事故を予見・回避し、未然防止できる力を育む。
4	<p>学校管理職の育成と管理職候補者の発掘及び育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考える教員を育てる」をテーマに、「スクールのマネジメントセミナー」を年10回開催し、学校経営の視点をもって教育に携わる管理職候補者を育成するとともに、次代の杉並の教育を支える人材の発掘と育成を進める。 ○校長研修や副校長研修では、これからの時代に求められている教育の推進や管理職に求められる資質能力を育成し、学校管理職としてのマネジメント能力を向上させる。

令和6年度の主要課題（学務課）

1	学校徴収金の公会計化
	<p>○ 区政経営改革推進計画に基づき、保護者の利便性向上、経理面での管理・監督体制の充実・透明性の向上及び教職員の業務の軽減化を図るために、学校給食費や学校徴収金の公会計化に向けたシステム導入の検討を開始し、学校給食費について、令和7年度中に試行実施、令和8年度に実施する。</p>

令和6年度の主要課題（特別支援教育課）

1	<p>特別支援学校の環境整備の確実な進捗管理</p> <p>○令和7年9月の済美養護学校中学部移転に向け、併設となる済美教育センターをはじめ、関係各課と緊密に連携するとともに、保護者や地域住民等への説明など必要となる調整等を行い、円滑な移設に向け着実な進捗管理を行う。また、中学部移設後の現校舎の修繕について、新年度の予算計上時を目途に学校と協議する。</p>
2	<p>個別の学び支援システムを活用した教員の指導力向上</p> <p>○個別の学び支援システムを活用し、支援が必要な子どもの多様な教育的ニーズを把握しながら、個別の指導計画の内容とそれに基づく実践の充実を図るとともに、若手を中心とした教員の指導力の向上を図る。</p> <p>○今年度は小学校全校（昨年度24校）に導入したことから、本システムを全教員が活用することを推進し、各校における特別支援教育が更に組織的に図られるよう支援する。また、個別の指導計画の作成に係る時間の短縮を図り、教員の負担を軽減する。</p>
3	<p>新しい「特別支援教育推進計画」の策定に向けた着実な取組</p> <p>○杉並区教育ビジョン2022及び国や都の動向などを踏まえ、新たな杉並区特別支援教育推進計画（令和7～9年度）の策定を行う。</p> <p>境界域の子どもへの支援及び就学前から義務教育期間を通じた切れ目のない支援など、特別支援教育に関する最新の知見を取り入れ、校長会や関係団体等の意見も踏まえながら、杉並区の特別支援教育の取組を検討していく。</p>

令和6年度の主要課題（学校整備課）

1	<p>小・中学校の老朽改築</p> <p>○改築に向けて検討を行う学校</p> <p>ア 杉並第一小学校の改築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から改築検討懇談会を開催し、病院跡地へ移転後の学校の検討を行う。 ・「あさがやまちづくりセッション」での検討及び会議の合同開催等の連携を図る。 ・学校の設計業者をプロポーザルにより選定する。 <p>イ 西宮中学校の改築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設マネジメント担当が主催する、周辺の区立施設を含めた施設再編を考えるワークショップの中で、改築後の学校の在り方を検討する。 <p>ウ 天沼中学校の改築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設するさざんかステップアップ教室等との複合化も含め、改築に向けた検討を行う。 <p>○継続して改築等に取り組む学校</p> <p>ア 杉並第二小学校の改築 仮設校舎、旧校舎・屋内運動場解体工事を行う。</p> <p>イ 富士見丘中学校の改築 旧校舎解体後、新校舎建設工事を行う。</p> <p>ウ 中瀬中学校の改築 新校舎建設工事を行う。</p> <p>エ 神明中学校の改築 仮設校舎建設後、旧校舎の解体工事を行う。</p> <p>オ 高井戸小学校の増築 校舎・学童クラブの増築工事を行う。</p> <p>○改築期間の教育環境の確保</p> <p style="padding-left: 20px;">改築期間における体育や部活動の代替場所の確保に努める（神明中、中瀬中ほか）。</p>
2	<p>長寿命化改修の実施</p> <p>○長寿命化改修の実施（久我山小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、長寿命化改修を実施する（4年計画の3年目）。 <p>○中規模修繕の実施（堀之内小学校、高井戸中学校、井荻中学校、泉南中学校、桃井第三小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築20・60年の学校を対象に予防保全を含めた施設・設備等の修繕を実施する。
3	<p>学校施設環境の見直し</p> <p>○学校プールのあり方の検討</p> <p style="padding-left: 20px;">令和5年度にこれまで学校単位で整備していた学校プールの共用化等について検討を行ったが、令和6年度も引き続き検討を行い、改築時における今後のプールの整備方針を策定する。</p> <p>○学校トイレの洋式化</p> <p style="padding-left: 20px;">5か年計画で、和式トイレを洋式化する工事を行う。5か年の1年目。</p> <p>○バリアフリートイレの整備</p> <p style="padding-left: 20px;">車いす利用の児童・生徒が使用できるように、バリアフリートイレの整備を進める。</p> <p>○教室の断熱化</p> <p style="padding-left: 20px;">最上階で屋上緑化のない等の教室の環境改善を図るため、天井の断熱化を行う。また、上記以外の学校で、夏季の室温が高くなり断熱化の必要のある教室の対応について検討する。</p>

令和6年度の主要課題（学校支援課）

1	<p>学校開放事業におけるさざんかねっとの導入</p> <p>○ 令和7年3月からさざんかねっつによる学校開放事業のシステム化を行う。利用者、学校ともに利便性等が向上するよう、システムの仕様等を確定させ、運用に当たり学校との調整を進めていく。また、利用者が滞りなくシステムによる利用調整に移行できるよう、実施校毎に説明会を開催する。さざんかねっつの導入により学校施設の利用状況が可視化され、より多くの区民が地域の身近な学校施設を活用できる環境づくりにつなげていく。</p>
2	<p>学校施設における子どもの居場所づくり</p> <p>○ 「学びのプラットフォーム」の考えを軸とした学校施設の有効活用を推進するため、まずは喫緊の課題である「子どもの居場所づくり」から取り組み、それを契機として学校施設の活用範囲を広げていく。具体的には、今後策定が予定されている「(仮称)子どもの居場所づくり基本方針」に基づき、児童青少年課と連携しながら、校庭活用のあり方や放課後等居場所事業の利用スペース拡大等について検討を進め、令和7年度からの運用を見据えた調整を行っていく。</p>
3	<p>部活動の地域移行</p> <p>○ 部活動の地域クラブ活動への移行に向けた取組を推進することなどを目的に「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画（以下「推進計画」という）」を策定する。</p> <p>○ 「学校部活動の地域クラブ活動への移行」を視野に入れた取組として、高円寺学園の全ての運動部活動の技術指導、大会の引率、審判の実施等を民間事業者に委託する。</p> <p>また、部員数の減少により一部の部活動において単一校での運営が困難な状況を踏まえ、令和7年度から本取組を、複数校の生徒が1つの拠点に集い活動を実施する拠点校方式による合同部活動として実施展開できるように準備を進める。</p>

4	地域と共にある学校づくりの充実
	<p>○地域と共にある学校づくりの要となる学校運営協議会（以下「協議会」という）について、子どもの学びを支えるとともに、子どものかかわりから大人自身も学びを深める機会として協議を活性化していくため、地域学校協働活動推進員（以下「推進員」という）と共に支援体制の充実を図る。そのために、昨年度末に区内全協議会委員を対象に行ったアンケートを推進員と分析して現状を把握し、協議会運営のガイドラインにまとめるとともに、各協議会からの求めに応じて推進員を会議の場に派遣するなど、個別支援を充実させていく。</p>

令和6年度の主要課題（生涯学習推進課）

1	<p>荻外荘の公開と特別展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年12月の荻外荘一般公開に向け、陽明文庫と展示資料に関連する共同調査を継続するとともに、復原整備に伴う展示工事等が円滑に進むよう、国、都、関係各課と連携して取り組む。 ○ 荻外荘の公開に合わせて、陽明文庫の協力のもと、近衛家ゆかりの品を紹介する特別展を郷土博物館で開催する。
2	<p>社会教育士等を効果的に活用した学びの支援等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育士を育成するため、庁内の社会教育主事資格者に対し社会教育士の資格取得を促すとともに、地域で活動する区民に対し、機会を捉えて社会教育士に関する周知や理解促進を図る。 ○ 令和5年度の試行事業をもとに、社会教育士等の活動を支える学び合いの場として「学び合いのワークショップ」や「スキルアップ講座」を実施するとともに、これらの参加者が主体的に行う「新たな社会教育活動の支援」の事業実施に向けて検討を行う。
3	<p>科学教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イマジナスが、区民に親しまれ科学に興味・関心を持つきっかけの場となるよう、引き続き、周知等の側面支援を行う。 ○ 区の科学教育事業については、イマジナスとの相乗効果を図るため、同事業者に委託して実施する。各事業の着実な実施と質の向上に向けて、事業者と連携・協議をしながら進める。

令和6年度の主要課題（済美教育センター）

1	<p>「子どもの思いを尊重し、違いを認め合うこと」を重点に自立的・協働的に考える学校を支援し、教育ビジョン2022の具現化を図る</p> <p>○一人ひとりの子どもの主体的に学び続ける力を育む学校教育の充実に向けて、学校の実態に応じた支援を行う。</p> <p>○誰もが当事者として、共に学校づくりや社会づくりに参加する教育活動を学校が推進できるよう支援する。</p> <p>○指導主事及び教科指導・学校経営の専門家チームによる校内研究・研修への支援を行う。</p>
2	<p>様々な専門職や関係機関等と連携し、生涯にわたって学び続ける力を育む教育活動を支援する</p> <p>○自ら学ぶ姿勢を一層育むため、GIGA スクール構想で整備した ICT 環境を最大限活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。</p> <p>○デジタルコンテンツの導入等、ICT 環境の一層の充実に向けた研究を推進する。</p> <p>○学校図書館活用実践校による「学習センター」「情報センター」機能の充実を資する研究を推進する。</p> <p>○生涯にわたって運動に親しみ体力を培う態度の育成につながる取組を推進する。</p>
3	<p>いじめ対応などの多様な課題に、組織的に対応する学校を支援し、安心・安全な教育環境の充実を図る</p> <p>○「いじめ防止対策推進基本方針」の改訂による、より実効性の高い取組を推進する。</p> <p>○学校の相談体制と組織対応力を強化し、いじめ防止等の取組の充実を図る。</p> <p>○指導主事及び学校経営の専門家チームによる生活指導等への支援を行う。</p>
4	<p>訪問型要請研修等の機会を充実し、指導力向上及び「考える」人材の育成を推進する</p> <p>○学校及び教員のニーズに応じた訪問要請型の教員研修の充実を図る。</p> <p>○教員の指導力向上に向けた研修動画教材の作成・活用に引き続き取り組む。</p> <p>○学校のニーズに応じた「理科出前授業」と教材提供になるよう改善に取り組む。</p> <p>○学校図書館担当及び学校司書の専門性向上を図る研修の充実を図る。</p>

令和6年度の主要課題（教育相談担当課）

1	<p>学びの多様化学校の早期設置準備</p> <p>○設置施設の調整を行っていくとともに、設置施設的环境を踏まえた学校経営方針を検討する。</p> <p>○特別の教育課程の編成を検討する。</p> <p>○東京都・文部科学省への申請準備や準備段階からの計画的な人事配置の検討を行う。</p>
2	<p>児童生徒の多様な学びの選択肢の拡充</p> <p>○各学校の実態に応じた校内別室指導の実施に向けた支援の充実を図る。</p> <p>○チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）の適切な運営と全中学校対象への拡充を図る。</p> <p>○さざんかステップアップ教室^{※1} 4教室の特徴を生かした学びと居場所機能の充実を図る。</p> <p>○バーチャル・ラーニング・プラットフォーム^{※2}の対象児童・生徒拡充と区独自の学びやイベントの実施を検討する。</p> <p>※1 さざんかステップアップ教室：不登校児童・生徒が集団生活等を通して社会性を育み、社会的自立ができるよう支援することを目的とした教室</p> <p>※2 バーチャル・ラーニング・プラットフォーム：仮想空間上に用意した不登校の子どもたちや日本語指導が必要な子どもたちの居場所・学びの場</p>
3	<p>学校の教育相談等の充実</p> <p>○教育相談コーディネーターを中心とした未然防止・早期対応体制の構築を図る。</p> <p>○スクールカウンセラー（SC）による相談支援の充実を図る。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー（SSW）について、拠点校での取組をとおし、各学校への段階的な配置拡充を図る。</p>
4	<p>教育相談室の適正な運営管理</p> <p>○済美教育センターから施設が独立することをふまえた、適切な施設管理を行っていく。</p> <p>○来所相談者が安心できる相談対応及び環境の構築を図る。</p> <p>○ホームページを活用した相談手順、不登校支援等の周知の充実を図る。</p>

令和6年度の主要課題（就学前教育支援センター）

1	<p>就学前教育の質の向上</p> <p>○令和5年度から2年間にわたる成田西子供園の教育課題研究（主題：「やってみたい・こんなふうにしたい・こうしたらどうなるかな」と心を動かして遊ぶ）に続き、令和6年度から下高井戸子供園で2年間の教育課題研究を新たに開始する。区立子供園だけでなく、保育施設を含めた区内就学前教育施設全体でも活用できるよう配慮しながら研究成果の発信を行う。</p>
2	<p>幼保小連携事業充実に向けた研究及び支援</p> <p>○高井戸第三小学校を研究校として、令和4年度から「小学校教員と就学前教育施設の保育者の効果的な交流活動」をテーマとして幼保小連携の充実に向けた研究を3年間実施してきた。令和6年度は、4月のスタートカリキュラム公開授業及び研究成果リーフレットの配布による成果の発信により、区内全小学校の幼保小連携担当者の理解を深め、区内の幼保小連携の一層の推進を図る。</p> <p>○小学校のスタートカリキュラム充実を図るため、引き続き就学前教育支援センター幼保小連携担当職員によるカリキュラム作成支援を実施する。加えて、幼保小連携研修、幼保小連携担当者連絡協議会の機会も活用しながら幼保小連携担当者が新年度のスタートカリキュラムに向けた見直し、改善が着実に進められるよう理解啓発を行う。</p>
3	<p>支援の必要な幼児への教育的支援の充実</p> <p>○併設の特別支援教育課等と連携しながら、心理専門職による子供園及び私立幼稚園への巡回相談の充実を図る。</p> <p>○区内の就学前教育施設を対象とした教育支援相談事業の実施により、引き続き各就学前教育施設における支援の必要な幼児への教育的支援の一層の充実を図る。</p>
4	<p>就学前教育施設の地域人材の活用を推進する仕組みづくりに向けた検討</p> <p>○就学前教育施設における幼児の多様な体験活動の充実のため、すでにある地域教育推進協議会等、地域と学校のつながりの事例も参考としながら、地域人材の活用を推進する取組の検討を進める。</p>

令和6年度の主要課題（中央図書館）

1	高円寺図書館の移転・開設に向けた準備
	○ 旧杉八小跡地に整備し、令和6年度中に移転する高円寺図書館等複合施設について、管理運営する指定管理者候補者を選定し、現高円寺図書館からの移転業務を確実に行う等、開設に向けた準備を円滑に進める。
2	ＩＣタグシステムの導入
	○ 令和5年度から引き続き、ＩＣタグシステムの導入を円滑に進めるとともに、中央図書館に設置した自動貸出機の利用状況を踏まえ、業務の効率化等の検証を行い、順次地域館へ配置していく。また、令和6年度に中央図書館及び移転後の高円寺図書館に設置する予約資料受取棚の利用状況を確認したうえで、他の地域館への設置について検討する。
3	宮前図書館の改築に向けた検討
	○ 西宮中学校との複合化を視野に移転改築を検討していた宮前図書館について、改めて、地域住民との意見交換を行い、整備方法についての検討を進める。